



戦争をテーマにした本を朗読するボランティア

戦争を考え平和の尊さを伝える

■平和学習展

平和学習展が8月1日から15日まで、い〜らで開かれました。

「牧之原市核兵器のない世界を目指す平和都市宣言」を周知し、戦争の悲惨さや平和の尊さを伝えることを目的として開催。朗読会では、市内の5つのボランティア団体が、戦時中の生活を描いた紙芝居や戦場からの手紙などを朗読しました。臨場感あふれ、感情のこもったボランティアの語り、訪れた人たちは目を閉じて、時には涙を浮かべながら耳を傾けていました。

市民と共に災害に強いまちづくり

■災害時の情報伝達に関する協定締結式

市は8月8日、市役所相良庁舎で相良非常通信ネットワークと「災害時の情報伝達に関する協定」を結びました。

同団体は相良地区のアマチュア無線愛好家約90人で構成。協定では、大規模災害発生時など防災行政無線による通信が困難な場合、アマチュア無線を使って情報収集を支援することとしています。

森田護会長は、「将来的には会員を増やして、市内全域をカバーできるようになりたい」とあいさつしました。

災害時の情報伝達に関する協定締結式



協定を結び、握手を交わす西原市長と森田会長（右）

幻想的な光に願いを託す

■さがら灯ろう流し

さがら灯ろう流しが8月14日、萩間川の湊橋付近で行われました。

地元有志でつくる「さがら灯ろう流しの会」が昨年、地域の行事を後世に伝えたいと23年ぶりに復活させたもの。辺りが暗くなると、「頑張れ！日本」「家内安全」などの願いが書かれた約500個の灯籠が河口に流され、来場者は、揺らめきながら漂う光を静かに見つめていました。

灯籠の販売金額の一部は、義援金として福島県南相馬市へ送られました。



川面を静かに流れる灯籠。幻想的な風景が広がる



テレビからの迫力ある音と映像を楽しむ入居者の皆さん

情報格差の解消を目指して

■施設入居者への花火大会インターネット中継

市内の情報をインターネット動画などで発信しているNPO地域情報サポートネット「マキノハラTV」が8月10日、養護老人ホーム相寿園でさがら海上花火大会をインターネット中継しました。

NTT西日本から無償で提供された端末を利用し、入居者はテレビ画面で迫力ある花火を楽しみました。9月からは、相良庁舎1階ロビーのテレビでもインターネットを利用し、市のホームページや「マキノハラTV」などを見ることができるようになりました。



医療救護訓練で実施されたトリアージ

大地震に備え地域で連携

■総合防災訓練

総合防災訓練が9月1日、市内全域で開催されました。

「自らの命は自らで守る 自らの地域は皆で守る」をテーマに実施され、約1万3千人の市民が参加。菅山区では初めて、約50人の区民が避難所の菅山小体育館に宿泊し、避難体験をするなど、各地でさまざまな訓練が行われました。

2日には、い〜らで、医師会や歯科医師会、薬剤師会、自主防災組織など約250人が参加して、医療救護訓練が行われました。重症度や緊急性で治療の優先度を決定するトリアージ、救急搬送患者の榛原総合病院への搬送など、参加者は真剣な表情で訓練に取り組みました。

お茶を通じた交流が両国の架け橋に

■宜興市修学旅行生との交流／牧之原小

牧之原小5、6年生約30人は8月7日、同校体育館で中国江蘇省宜興市から修学旅行で訪れた小中学生約40人と交流を行いました。

この交流は、今年5月に締結した同市との友好交流の覚書に基づき実施したものです。今夏は、このほか周辺都市からも約500人の児童生徒らが来市し、市内の各校で交流が実施されました。

この日は、地元手揉み保存会の協力により、子どもたちが一緒に茶の手揉みを体験。牧之原小の児童が入れたての静岡牧之原茶を振る舞いました。



中国の児童生徒にお茶を入れる牧之原小の児童ら



大沢公園でのすずき幼稚園児らによるマーチングバンド

夏の商店街を盛り上げる

■さがら・夏・夢舞台2012

商店街の利用者や地域住民への日ごろの感謝を伝え商店街の活性化を目的とした、さがら・夏・夢舞台2012が8月3日、大沢公園で、翌4日には、本通り商店街で開催されました。

大沢公園では、近年恒例となった移動触れ合い動物園が今年も設けられ、集まった子どもたちや家族連れは30種類以上の動物とふれ合いました。

本通り商店街では、各小学校の児童らによるよさこいソーランや大道芸人による大道芸などが通りを盛り上げました。



広報担当がどこにも取材に行きます。あなたの身近なホットで楽しい話題やイベントなどの情報をお待ちしています。

秘書広報課 ☎ (23) 0052 ✉ seisaku@city.makinohara.shizuoka.jp